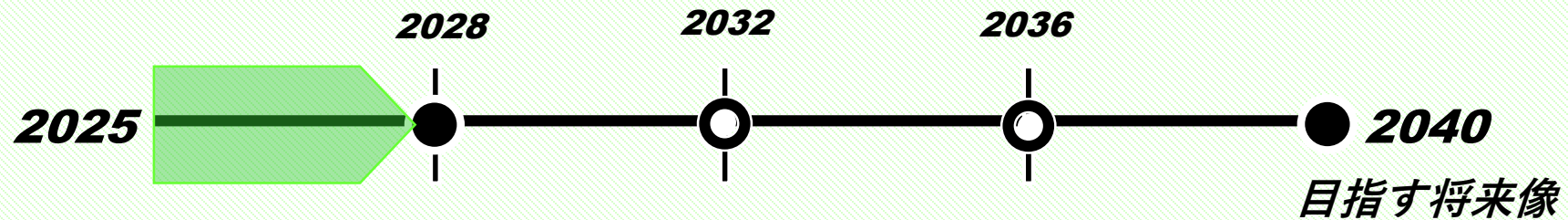


佐賀市スマート行政推進プラン

ACTION PLAN

—2025~2028の重点的な取組—



R7年5月策定

取組一覧

区分(3)	推進項目(9)	取組(35)	区分(3)	推進項目(9)	取組(35)
1 職員・組織 (ヒト)	①自ら考え行動できる、 多様な人材の確保・育成	1 人材獲得	5 サービス	⑤中長期的な視点に 立った財政運営	17 ネーミングライツ
		2 デジタル人材			18 ふるさと納税
		3 成長支援			19 職員の適正配置
		4 自主研究グループ			20 AI・ICTの活用
		5 職員提案制度			21 ナッジ理論に基づく業務改善
	②ワーク・ライフ・インテ グレーションの推進	6 時差出勤			22 行かない窓口(オンライン申請)
		7 テレワーク			23 書かない窓口
		8 キャリアデザイン			24 リモート窓口
		9 リスキリング			25 キャッシュレス決済
		10 育児休業			26 庁内データの一元管理
		11 ABW(働く場所を自由に選択)	27 AIチャットボット		
	③社会課題に即応でき る組織体制の構築	12 プロジェクトチーム	28 待たない相談窓口 (オンライン予約)		
		13 人事制度のアップデート	29 市報・ホームページ		
		14 多角的視点を重視する組織	30 プッシュ通知		
	2 施設・財務 (モノ・カネ)	④将来を見据えた公共 施設の適正配置	15 公共施設の適正配置	⑦市民目線に立った相 談環境の充実	31 WEBアンケート
			16 小中学校のあり方検討	⑧ピンポイントかつタイム リーな情報発信と市民 ニーズの把握	32 産学官連携
			⑨多様な主体との連携	33 地域との連携	
				34 地域活動への参加	
				35 広域的な連携	

1 職員・組織(ヒト)

①自ら考え行動できる、多様な人材の確保・育成

AI等の最新技術を活用して、定型業務のオートメーション化が進む中、これからの佐賀市に必要とされるのは、社会の変化に対応できる様々なスキルや柔軟かつ多様な考えを持つ人材です。組織パフォーマンスを向上させるための人材の確保と育成等に取り組みます。

人材獲得

- ・佐賀市役所で働く魅力を発信します。
- ・受験機会を拡充します。
- ・就活や転職フェア等へ積極的にアプローチします。

内定承諾率(%)

R6基準値 R10目標値

70% → 85%

デジタル人材

- ・DXに関する知識の習得やツールの活用等を推進できる人材を育成します。

DX実践者人数(人)

R6基準値 R10目標値

207人 → 800人

成長支援

- ・主任・主査等を中心に、将来のリーダーとしてのマインドを醸成します。

意識醸成できた人数(人)

R6基準値 R10目標値

— → 220人

自主研究グループ

- ・職員の研究グループの活動費の一部を助成することで、自主的な研究活動を支援します。

自主研究グループ数

R6基準値 R10目標値

4 → 8

職員提案制度

- ・若年層が積極的かつ自発的に提案できるように制度を運用します。

提案者人数(人)

R6基準値 R10目標値

8人 → 30人

1 職員・組織(ヒト)

②ワーク・ライフ・インテグレーションの推進

すべての職員が自分のありたい将来像を思い描き、将来に不安を抱くことなく、健康に働けることが重要です。

子育てや介護をしている職員等がより働きやすさを感じられるように、取組を進めます。

時差出勤

・時差出勤の活用を推進します。

働きやすくなったと思う職員の割合(%)

R6基準値 72%
R10目標値 90%

テレワーク

・在宅勤務やオンライン会議等、場所に捉われない柔軟な働き方を広げていきます。

働きやすくなったと思う職員の割合(%)

R6基準値 72%
R10目標値 90%

キャリアデザイン

・入庁3年次等の職員に対して、キャリアデザインに関する研修を実施します。

キャリアに対するイメージができた職員の割合(%)

R6基準値 88%
R10目標値 90%以上

リスキリング

・通信教育講座の活用等により、職員のリスキリングを支援します。

通信教育講座の受講件数(件)

R6基準値 31件
R10目標値 60件

育児休業

・新任管理職等への育休に関する研修を行うなど取得しやすい職場環境づくりを促進します。

男性育児休業取得率(%)

R6基準値 69%
R10目標値[※]

※次期佐賀市特定事業主行動計画(R8～)において設定予定

佐賀市版

ABW (働く場所を自由に選択)

アクティビティ・ベースド・ワーキング

・その時々の仕事の内容に合わせて、働く場所を選択する働き方を広げていきます。

(試験導入検討)

R7 試験導入
R10目標値 庁内の半数で実施

1 職員・組織(ヒト)

③社会課題に即応できる組織体制の構築

社会や市民のニーズは多様化し、専門性が求められる課題が増えています。それらに迅速かつ的確に対応していくためには、年齢や性別に関わらず、職員それぞれの強みを活かしてオール佐賀市で取り組まなければなりません。

プロジェクトチーム

・必要に応じて、横断的なプロジェクトチームを結成し、課題やニーズに対して迅速に対応します。

より効果的に事務を推進した
プロジェクトチームの割合

R6基準値
100%

R10目標値
100%

人事制度のアップデート

・複線型人事制度など新たな人事制度を導入し、多様化する市民ニーズ等に迅速に対応します。

新たな人事制度の導入

R7 検討

R8 導入

R9 ※R8年度に指標を設定予定

R10目標値※

多角的視点を重視する組織

・性別や年齢等を限定せず、多角的な視点を大事にし、バランスのとれた職員配置を進めます。

管理監督職の女性割合

R6基準値
24%

R10目標値※

※次期佐賀市特定事業主行動計画(R8~)において設定予定

2 施設・財務(モノ・カネ)

④将来を見据えた公共施設の適正配置

人口や利用者のニーズに応じて、施設のありかたを見直していくことは必要不可欠です。

将来を見据えて、適正配置の検討を進めます。

※数値目標は、佐賀市公共施設等総合管理計画に定めています。

(2046年までに、2016年比で、施設総量(総床面積)を10%程度縮減)

公共施設の適正配置

- ・公共施設の複合化や機能集約の検討を進めます。
- ・公共施設の長寿命化を図り、トータルコストの縮減を図ります。
- ・施設機能の集約や民間活力の活用等による施設の付加価値の創出に向けた検討を進めます。

小中学校のあり方検討

- ・将来的な人口予測をもとに、多様な学びの機会や集団生活による社会性を育成する環境の確保に向けて、よりよい教育ができる学校のあり方について検討を進めます。



2 施設・財務(モノ・カネ)

⑤中長期的な視点に立った財政運営

将来にわたって、健全な財政を維持していくため、取組を進めます。

ネーミングライツ^{*1}

・ネーミングライツ制度を積極的に進めます。

ネーミングライツ導入の施設数

R6基準値

—

R10目標値

5

ふるさと納税

・ふるさと納税の選ばれる返礼品づくりや効果的なPR等を進めます。

ふるさと納税の寄附額

R6基準値

11.7億円

R10目標値

18.0億円

職員の適正配置

・人口規模や事務量に応じた適正な職員配置を進めるための計画を策定します。

(計画策定)

R7

調査
検討

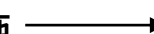
R8

計画
策定

R9

実施

R10目標値



AI・ICTの活用

・RPA^{*2}やAI-OCR^{*3}等の活用を拡大し、定型業務の効率化を進めます。
・生成AIの活用に向けた研究を進めます。

定型業務の削減時間

R6基準値

3,241時間

R10目標値

4,650時間

ナッジ理論^{*4}に基づく業務改善

・ファーストステップとして、ペーパーレス化に向けたガイドラインを策定するとともに、ナッジ理論を取り入れた業務改善を進めます。

コピー用紙購入枚数の削減率(%)

基準値(R5直近)

(R5購入実績)
3,550万枚/年
9万7千枚/日

R10目標値

△30%(R5比)

*1 事業者等との契約により公共施設に愛称を命名する権利

*2 人間がパソコン等を利用して行っている作業を自動化する技術。設定されたプロセスを設定されたとおりに実行するもので、主に単純作業に対して効果を発揮する。

*3 OCRの文字認識技術にAIを利用したもの。AIの機械学習により文字認識率が向上する。(OCR=手書きや印刷された文字をイメージスキャナ等で読み取り、文字をデジタルデータに変換する技術)

*4 人々の行動や意思決定を微妙に誘導することで、特定の行動を促す手法

3 サービス

⑥最新技術やデータの利活用によるサービス向上

市民の利便性を向上させる最新技術等を取り入れながら、事務効率化を推進できる取組を進めます。

行かない窓口(オンライン申請)

・オンライン申請ができる手続きを増やします。

オンライン対応の手続き数

R6基準値

101

R10目標値

200

書かない窓口

・書かない窓口の環境を構築します。

市民の手続きに要する時間の削減

R7:導入

R7目標値※

6,800時間

※ R8以降の目標値は、対象窓口拡充の検討状況に応じて設定予定

リモート窓口

・支所等にリモート窓口を設置します。

市民の手続きに要する移動時間の削減

R7:導入

R7目標値※

640時間
(大和支所・川副支所)

※R8以降の目標値は、対象窓口拡充の検討状況に応じて設定予定

キャッシュレス決済

・キャッシュレス決済の対応範囲を順次拡大します。

公金納付のキャッシュレスの拡充

R6

児童クラブ
利用料

R10

公共施設の利用料等
順次拡大

庁内データの一元管理

・データ管理システム(DMS)によりデータを一元的に管理し、政策形成等での利活用を推進します。

DMSのデータ管理数

R6基準値

22

R10目標値

100

3 サービス

⑦市民目線に立った相談環境の充実

悩みに寄り添う相談を充実させていくために、取組を進めます。

AIチャットボット

・AIチャットボットの対象メニューを拡充します。

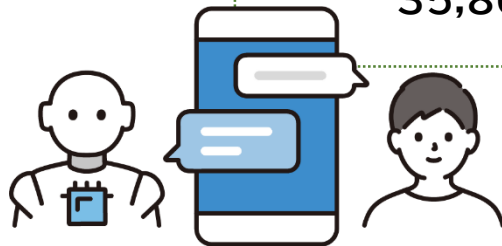
問い合わせ件数

R6基準値

R10目標値

35,869

37,200

待たない相談窓口
(オンライン予約)

・LINE等による相談環境を充実します。

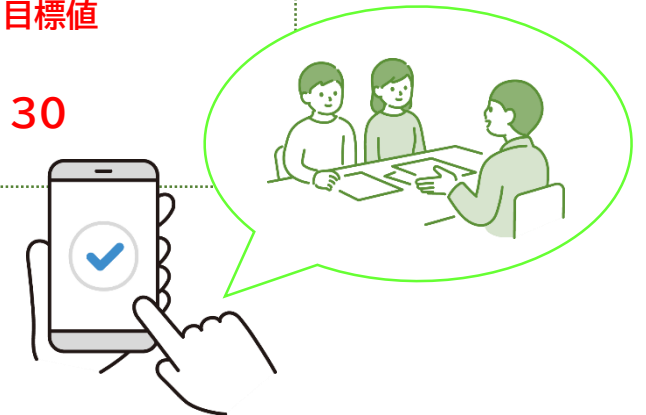
オンライン予約できる相談メニュー数

R6基準値

R10目標値

16

30



3 サービス

⑧ピンポイントかつタイムリーな情報発信と市民ニーズの把握

誰もが、いつでも、どこでも、必要な情報を手に入れることができること、そして、その内容が読みやすく、見つけやすく、分かりやすいものであることが大切です。タイムリーな情報発信やニーズ把握を意識した取組を進めます。

市報・ホームページ

・市報とホームページをリニューアルし、読みやすさ・見つけやすさ・分かりやすさをUPします。

必要な市政情報が入手できていると思う市民の割合

R6基準値

67%

R10目標値

71%

プッシュ通知

・LINEを活用した子育て情報のセグメント配信を充実します。

・おやこ健康手帳(母子手帳)アプリを導入し、プッシュ通知の配信を進めます。

・児童クラブの保護者との連絡手段をアプリに切り替え、児童の入退所時刻をメールで通知します。

必要な情報が入手できていると思う利用者の割合

R6基準値

70%

R10目標値

74%

WEBアンケート

・市民ニーズを迅速かつ的確に把握するために、WEBアンケートを拡充します。

WEBアンケートの数

R6基準値

11

R10目標値

24

3 サービス

⑨ 多様な主体との連携

多様な主体との連携を強化することで、事業効果のさらなる向上を目指します。

産学官連携

・若者の市内企業への就職や起業に繋げるため、新たに大学や企業と連携した取組を進めます。

連携する大学や企業等の数

R7
新規事業

R10目標値
40

地域との連携

・公民館の多様な利活用を進めるため、地域団体と企業等との連携を強化・拡充します。

地域団体と企業等が連携した事業等の実施回数

R7
R7.10
新制度開始

R10目標値
100

地域活動への参加

・職員の地域活動への参加を促進します。

職員の地域活動への参加割合

R6基準値
85%

R10目標値
90%

広域的な連携

・広域連携に関する制度の研究を進めます。
・さらなる広域連携の可能性を検討します。

(検討)

R7 R8 R9 R10

調査
検討